

中国語の比較文における 否定辞“不”の位置⁰⁾

相 原 茂

0

0. 1 日本人の中国語学習者が犯しやすい誤りとして、例えば

1) *这个比那个不大。

2) *他比我不高。

といった、否定辞の位置を間違えるものがある。正しくは、それぞれの“不”を介詞フレーズの前に置き、

1)' 这个不比那个大。

2)' 他不比我高。

とせねばならないのだが、ここからは日本語の否定辞が用言の後につき、中国語のそれは用言の前に位置するという大きな違いが見てとれる。

ただ単に「用言の後」と「用言の前」という違いだけなら、1)も2)も“不大”、“不高”のように、局部的には中国語の要求を満たしている。“*大不”とか“*高不”とはしていないのだから。問題はむしろ、介詞フレーズのような用言性フレーズが文中に存在した場合、それをも Neg の範囲内に含めることがあり得るということである。

「～すべきだ」というような助動詞の場合も同様である。

3)* 她想为灾区人民应该做一点儿事。〈彼女は被災地区の人々のために何かしてやるべきだと考えた〉

これも正しくは、“应该” yīnggāi を介詞フレーズ“为灾区人民”の前に置き、

3)' 她想应该为灾区人民做一点儿事。

とする。助動詞も Neg も日中両国語において、その生起する位置がちょうど逆になる。1)～3)のような誤りは、いわば〈母国語の干渉〉と呼ぶことができる。

次例は、学生の作文ではない。《论语》冒頭の一節である。

4) *子曰学而时习之亦不说乎。

4)は『河野六郎著作集3』（平凡社）で発見した例で、恐らく単なる誤植と

思われるが、もし訓読「また説まばしからずや」から復元したとすれば、誤植に非ず誤記の可能性もあろう。日本語では副詞と Neg の前後関係は問題にならないが、中国語では“再不～”と“不再～”の違いをはじめ、

5) 也不好<やはりよくない>

6) 不也好<よいではないか>

など、全く意味が変わってしまう。これは《论语》のような古典においても同断である。

0. 2 本稿は、以上のような<母国語による干渉>に起因する Neg の位置の問題を、とくに中国語の比較文にしぼって考察する。

この問題を取り上げるのは、もう一つ理由がある。相原1989は、介詞フレーズを含む文の否定形式を扱ったものであるが、例えば

7) a. *他不对我满意。

b. 他对我不满意。

7)bのように Neg が述語 VP の前に置かれ、7)aのように介詞フレーズの前には置かれないのは、述語 VP が [+static], すなわち [靜態的] であるためとした。逆に、

8) a. 他不对外人说。

b. *他对外人不说。

においては述語 VP が [-static], すなわち [動態的] であるため、Neg は介詞フレーズの前に位置する。これをルールの形にすれば、次のように単純な図式となる。

9)

述語 VP $\left\{ \begin{array}{l} [+static] \rightarrow \text{述語の前に Neg} \\ [-static] \rightarrow \text{介詞の前に Neg} \end{array} \right.$

もちろん、あらゆる介詞フレーズを含む文の否定形が、9)のような単純なルールで余すところなく説明し尽せるわけではないが、(例えば「場所」を表す介詞“在” zài など)以下に示すように、これによって説明可能な例も少なくない。

10) a. 他不给我写信。…… [-static]

b. *他给我不写信。

11) a. 不往东走。…………… [-static]

b. *往东不走。

12) a. *不离宿舍远。

b. 离宿舍不远。…………… [+static]

ところが、「比較」を表す“比”構文は、その述語 VP が [+static] であるにも関わらず、ルール9)の明らかな違反例である。

13) a. 他不比我高。…… [+static]

b. *他比我不高。

これをどのように解釈すればよいか、本稿執筆のもう一つの動機である。

1

1. 1 中国語の比較の表し方は、大きく二つに分かれる。《現代汉语词典》には、次のような簡潔にして、核心をついた説明が見える。(下点、引用者)

比较高下的时候用“比”，表示异同的时候用“跟”或“同”。(p.56)

すなわち、二つのものを比較して、その程度の高低(「大きいか小さいか」「速いかおそいか」「長いか短い」等)を言う時は“比” bǐ を用い、異同(「同じか違うか」)を表す時は“跟” gēn や“同” tóng を用いる。

そして、この二種類の比較文の否定形式は平行関係にはない。

14) a. 这个跟那个一样。

b. 这个不跟那个一样。

c. 这个跟那个不一样。

15) a. 这个比那个大。

b. 这个不比那个大。

c. *这个比那个不大。

“跟”構文は b, c 共に許されるが、“比”構文では c は非文法的である。

1. 2 では“比”構文では、述語 VP¹⁾に“不X”，すなわち Neg を伴った形式が現われることはないのであろうか。実はそんなことはなく、以下はいずれも話劇の脚本からの実例である。

16) 疯子：不是！那个淹死小妞子的龙须沟！它比谁不厉害？您怎么不管！（老舍《龙须沟》）

17) 何新华：（有点儿挂火儿）妈，您可别瞎说。

孔繁星：新华，什么话吧？咱妈比谁不开通？（苏叔阳《家庭大事》）

18) 齐凌云：我骗您干吗？您比谁不精明，我敢撒谎吗？（老舍《女店员》）

以上の三例は、しかし、いずれも反語としての用例であり、これを以て“比”構文にも“不X”なる形の述語があるとするには根拠として弱い。しかし、さらに次のような例がある。²⁾³⁾

19) 他的动作灵敏，精神也透着特别轻快，比先前大不相同……（杨朔《百花山》）

20) 长庚就冷笑着说：“你不要骄气，你男人比我还不如！”（鲁迅《在酒楼上》）

21) 这就是这个牙科医生的主张。信利疼得实在受不了，要求干脆拔掉，可是医生硬是不肯拔。信利那些有经验的上级也都异口同声地说，再也没有比装着满口假牙更不痛快的了。（有吉佐和子《恍惚的人》）

19) では“不相同”が現われている。“相同”については後述するが，“不相同”が“相同”の反義語であり，positive な形での“相同”の反義語は存在しないことが，述語として“不X”の出現をもたらしている。20) では“不如”が現われているが，これも“如”という形式が free form（単独自由発話形式）として存在せず，“不X”の形で（＝“不如”）1語と見なすべきものである。21) は翻訳体であるが，ここでの“不痛快”も“痛快”の反義語と見なしてよい。つまり，“不X”の形で，その肯定形Xの反義語Yを形成しているのである。

以上のことは，要するに“不X”がすべて意味的統一（ゲシュタルト）を形成している例であり，文法上はフレーズと考えられるものでも，意味的には1語相当の融合体である。

1.3 “不X”なる形で，Xの反義語Yに意味上接近するという考え方の，中国語における適用は相原1976に詳しい。

相原1976は“很＋不・形容詞”の成立する条件を考察したものであるが，そこでは次のように述べた。

‘很不x’に生起している不xは，このコンテキストにおいて，もとの形式xと，単にxの否定という *contradictory* な関係よりは，xの反意語yの意味に近い *contrary* な関係にある。

具体的に言えば，例えば‘不安全’という連鎖は，‘很不安全’というコンテキストにおいて，‘安全’の単なる否定ではなく，‘安全’の反意語‘危険’に意味が接近している。すなわちxと不xの意味関係は，

〈褒〉安全←*contrary*→不安全（≒危険）

ところがyと不yは

〈貶〉危険←*contradictory*→不危険（≒安全）

と仮定できる。

〈褒〉＝〔＋評価〕という意味単位をもつ語は，その原形（x）と否定形（不x）の意味関係は *contrary* であるが，〈貶〉＝〔－評価〕という意味単位をもつ語は，その原形（y）と否定形（不y）の意味関係は *contradictory* である。

簡単にまとめれば，〔＋評価〕（褒義）の形容詞は，例えば“安全” ānquán (X) なら，その否定形“不安全”は，Xの反義語“危険” wēixiǎn (Y) と

意味上はほぼ等しくなる。つまり *contrary* (反義的) な関係になるが、[-評価] (貶義) の方は、例えば“不危険”としても、これは「危険デハナイ」ということで、単に“危険”の否定にとどまる。こちらを *contradictory* (矛盾的) な関係と呼んだわけである。

これと同様の現象は、英語の否定接頭辞 *un-* による *word formation* においても観察される。一般的に言って、語の *base* が [+評価] のものは *un-* を付けて語を形成するが、[-評価] のものにはそれが起こらない。

unsafe	*undangerous
unhappy	*unmiserable
unwise	*unfoolish
unclean	*undirty
⋮	⋮
[+評価]	[-評価]

日本語においても「不親切」とは言うが「不冷淡」とは言わず、「不吉」といい「不凶」はない。

以上のような観察に基づけば、我々が今問題にしている、“比”構文の述語 VP に現われる“不X”なる形式をとり得る“X”は、[+評価] とされる形容詞ということになる。

そして、この予想通り、次の例文(22)~(25)はいずれも文法的に成立する。

- 22) 这儿比那儿更不[・]安全。
- 23) 这张比那张还不好[・]看。
- 24) 你比他更不[・]听话。
- 25) 我们这儿比你们那儿还不[・]舒服。

但し、この場合“不X”の前に殆んど常に“更” *gèng* や“还” *hái* のような副詞がつく。これらを欠けば文は不自然になる。既出の例(20)(21)でも同様であることを確認されたい。

2

2.1 前節で見たことは、中国語の“比”構文においては、述語 VP に“不X”なる形式が現われることもあるが、それは統辞論的にはフレーズであっても、意味論的観点からは“不X”が1語相当の意味概念を表すものに限られること、従ってXは一般的に [+評価] とされる形容詞によって充当されるということであった。⁴⁾

この論点をさらに進めれば、“不X”は、Xの反義語Yに近いものとして

想定されているわけで、“不X”という“Neg+X”なる形式にも関わらず、意味的には単体、すなわち、肯定形 positive form としてとらえられている。

そこで、中国語の“比”構文を

A——比——B——比較の結果

と定式化すれば、言うところの「比較の結果」は一般に positive form によって担われるのが通常の姿だ、ということになる。

「比較の結果」＝「“比”構文の述語 VP」が positive form による、という点を明示的に記述した例を寡聞にして知らないが、北京大学中文系1955/1957級语言班編《現代汉语虚词例释》（商务印书馆，1982）には、次のような記述があり、間接的ながらこの点への言及が読み取れる。（下点、引用者）

比 bi（介词）

用以介绍出相比较的对象（乙），使甲、乙两种不同的事物（或情况）或同一事物在前后时间内（不同的甲、乙两情况）相比较，以衬托出甲事物（或情况）所具备的（超过乙的）性能。（同書，p.77）

“比B”の形で、比較の対象Bを紹介し、両者を比べた結果、Aなる事物・情況が、Bを凌駕している性質を浮き出させる、と言う。これによれば、AはBを「凌駕している」のであるから、

26) A比B高。（高さで凌駕）

27) A比B矮。（低さで凌駕）

は許されるが、次は許されない。

26)′ *A比B不高。

27)′ *A比B不矮。

ここから、述語 VP は常に positive form でなければならぬという原則が導かれる。かくて

28) A不比B高。

が許されるのは、構文上、

28)′ A不[比B高]。

であり、Neg が否定するのは[比B高]全体であり、「述語 VP は常に positive form である」という原則は破られていない。

この原則は中国語の「比較」というものの本質的性格と密接に関連しよう。例えば、副詞“比较”bijiao の後には例外なく positive なものしか来ない。

29) a. 比较大 *比较不大

b. 比较小 *比较不小

“比较”は、暗黙の基準に照らし、比較した結果、あるモノがある一定の程

度に達していることを認定する副詞であれば、これは“比”構文の述語 VP に positive form しか現われない事象と通底する言語事実と見なせよう。

2. 2 もう一度、例文(22)～(25)を再録する。いずれも原則違反例である。

22) 这儿比那儿更不_レ安全。

23) 这张比那张还不好_レ看。

24) 你比他更不_レ听话。

25) 我们这儿比你们那儿还不_レ舒服。

これらにおいて述語 VP が“不X”ながら文が成立しているのは、Xが[+評価]の語であり、“不X”が意味融合を起こし、意味的には positive form と見なし得、上の原則に違反しないからと解釈する。事実、“不X”の意味概念は、Xの反義語Yに近い。

不安全 = 危険である

不好看 = みにくい

不听话 = 言うことをきかない

不舒服 = 気分が悪い

2. 3 “跟”構文においては、

14) a. 这个跟那个不一样。

が成立する。すわち述語に“不X”が現われ得る理由は次のように考えられる。

“跟”構文は〈異同〉を表すものであった。今、「同じ」ことをXで、「違う」ことをYで表すとすれば、中国語にはYに相当する語は positive form としては“两样”liǎngyàngを除けば、常用語としては存在しない。“这个跟那个_____”のコンテキストに生起する〈異同〉を表す語は次のようなものである。

fig. 1

这个跟那个_____	〈同〉	〈異〉
	X	Y = 不X
	一样	不一样 两样
	相同	不相同 不同
	相似	不相似
	差不多	φ

「異なる」ことを表す positive form Yが存在しない以上、Yは“不X”で代替するしかない。

2. 4 これらに対し,

1) *这个比那个不大。

が成立しないのは、次のように説明される。

ここで言うところの“大”は、[+評価]とは基本的に無縁な、評価に関しては中立的な[\emptyset 評価]の単音節形容詞:

大 小; 高 低(矮); 多 少; 长 短; 深 浅; 远 近; 重 轻;

强 弱; 宽 窄; 厚 薄; 快 慢; 粗 细; 软 硬; 冷 热; ……

などを代表する。これらは[+評価]の形容詞とは異なり、“不X”の形で、その反義概念Yを形成する顕著な傾向を持っていない。

第二に、〈異同〉を表す“一样、相同”の類とも違い、Xの反義語Yはpositive formとして既に用意されている。従って、“这个比那个_____”に生起する、程度の〈高低〉を表す語のリストは次のようになる。

fig. 2

这个比那个_____	<高>	<低>	
	X	不X	Y
	大	*不大	小
	高	*不高	低, 矮
	长	*不长	短
	深	*不深	浅
	⋮	⋮	⋮

結局、ここでは原則通り、XまたはYという positive な語彙が選ばれ、“不X”や“不Y”が述語として現われる必然性はない。

3

3. 1 しかしながら[\emptyset 評価]の単音節形容詞も、ある特定の文脈においては[+評価]の意味を担うことがあり得る。“汉语水平高”とか“责任心强”などという場合である。これらは“比”構文の述語として、“不X”の形で生起可能である。()内は前提を示す。

30) (李四的汉语水平不高)

张三的汉语水平比李四更不高。

31) (李四的责任心不强)

张三的责任心比李四更不强。

だが、特定の文脈において[+評価]なる意味素性が付与され、単音節形容詞の“不X”形が可能だという説明は万能ではない。反証例がいくつか存在

する。次の例32)は、いわば貶義の例であるが、文法的である。

32) (李四的口音不重)

张三的口音比李四更不重。

一方、次の例は褒義でも非文法的である。

33) (李四的胆子不大)

*张三的胆子比李四更不大。

さらに、次の例34)は、インフォーマントによって成立不成立が分かれる。

34) (那把刀不快)

?这把刀比那把刀还不快。

3. 2 以上の諸例を統一的に解釈するものとして、やはり「Xに対する反義語Yが positive form として存在するか否か」という視点を導入する。

我々は“责任心强”といい、“责任心不强”というが、決して“责任心弱”とはいわない。すなわち、

34)		X	不X	Y
	责任心	强	不强	*弱

“強”(X)に対し“弱”(Y)が語彙体系内で用意されていても、今問題にしている半イデオムのフレーズにおいて“责任心Y”と言わぬ以上、“不X”がYの代替語として用いられることになる。

この観点から上述の例を図示すれば、以下のようになる。

fig. 3

		X	不X	Y
①	水平	高	不高	△低
②	责任心	强	不强	*弱
③	口音	重	不重	*轻
④	感情	深	不深	*浅
⑤	胆子	大	*不大	小
⑥	刀子	快	不快	钝

①は“水平高／不高”が普通であり、“水平低”は用いられること少ない。②は既に見た通りである。③についても“口音轻”という言い方は存在しない。但し、これについては“没有口音”という表現があり、こちらが自然であるため、例文32)は文法上は無謬だが受け入れられないとするインフォーマントもいる。④も“感情深／不深”であり“感情浅”とは言わないため、次のような表現が成立する。

35) (李四对她的感情不深)

张三对她的感情比李四还不深。

⑤は“胆子大”に対し，“胆子小”というYによる表現が全く問題なく存在するため、〈比較文における positive form 優先の原則〉を敢えて破ってまで“胆子不大”を使う必然性はなく、例文33)は非文になるものと思われる。

⑥では“刀子快/不快”を自然なものとして用いるインフォーマントは例文34)を認めるが，“不X”よりもYによる“刀子钝”を自然なものとして持つインフォーマントは、positive form の方が一層容認可能性が高いと感じ、34)を不自然とする。

3. 3 以上は、半イディオム的なフレーズにおいて、Xに対するYが欠落している例であった。「半イディオム的なフレーズ」という条件をはずしても、語彙体系の中にはXのみ存在し、反義語Yのない例が少なからず発見できる。“会”に対する“不会”，“懂”に対する“不懂”，“痛快”に対する“不痛快”など、いずれも“不X”によってYとする例である。他にも

fig. 4	X	不X	Y
	听话	不听话	φ
	舒服	不舒服	φ
	自由	不自由	φ
	科学	不科学	φ
	健康	不健康	φ
	精神	不精神	φ
	经济	不经济	φ
	道德	不道德	φ

これらの“不X”は“A比B更_____”のコンテキストに生起することができ、文法的な例文を容易に作ることができるものである。⁵⁾

3. 4 しかしながら、小説や脚本などの実作品にあたってみると，“比”構文の述語VPが“不X”である例は極めて少ない。これは、我々の想像以上に〈比較における positive form 優先の原則〉が強力であるためであろう。

事実、我々は次のようなケースにおいて、

36) (小王的汉语水平不高)

我的汉语水平比小王更不高。

必ずしも“比”構文を使わず、単に

37) 小王的汉语水平不高，我的汉语水平更不高。

とする方が自然であるし，“比”構文もしくは比較表現を用いたとしても

38) 小王的汉语水平比我高。〈主語変更〉

39) 我的汉语水平没有小王高。<“没有”使用>

40) 我的汉语水平不比小王高。<“不”前置>

41) 我的汉语水平还不如小王高。<“不如”使用>

など，“不X”の使用を避ける方策は多々準備されているのである。⁶⁾

4

4. 1 最後に，“不X”が述語として“比”構文に現れた場合，なぜ“更” gèng や“还” hái が欠かせないのかについて私見を述べておきたい。

“比”構文において，positive form が述語になった場合は，比較されるA，B二項間には，通常複数個の状況を想定し得る。例えば，

42) 他比我高。

i) 彼モ私モ背が高イ。

ii) 彼モ私モ背が低イ。

iii) 彼ハ背ガ高く，私ハ背ガ低イ。

例文 42) は i)～iii) いずれのケースでも成り立つ。同じく positive form の“矮”でも事情は変わらない。

43) 他比我矮。

i) 彼モ私モ背ガ低イ。

ii) 彼モ私モ背が高イ。

iii) 彼ハ背ガ低ク，私ハ背ガ高イ。

但し，ここで例示した“高一矮”はいわゆる A^{アナログ}ペアあり，Aペアではかく言えるが，^{デジタル}Dペアの場合はゆるやかな規制がかかる（A/Dペアについては相原1976参照）。例えば，

44) 冰比水冷。

i) 氷モ水モツメタイ。

ii) 氷モ水モアツイ。

iii) 氷ハツメタク，水ハアツイ。

“热—冷”はDペアであり，ii)iii)は“水”は英語の water 同様，温度差を含まぬとしても明らかにおかしい。“金刚石比石头硬”などの例文についても同様のことが言える。上で「ゆるやかな規制」と述べたのは，Dペアの場合，これほど顕著でない例も存在するからで，例えば“胖—瘦”などでは

45) 他比我胖。

i) 彼モ私モ太ッテイル。

ii) 彼モ私モ瘦セテイル。

iii) 彼ハ太リ, 私ハ瘦セテイル。

i)は問題ないとして, ii)やiii)のケースで45)の発話が行われるかどうか意見の分かれるところであろう。

いずれにせよ, ^{デジタル}D ペアの場合は基本的には述語 VP に充当する形容詞 X によって表される性質, 状態が, AB二項によって具有されているべくゆるやかに規制されていると言える。これに反し, “比” 構文に ^{アナログ}A ペアが現れた場合は, このような規制から自由である。

4. 2 A/Dペアとは [φ 評価] の対をなす単音節形容詞に関するカテゴリーとして設定したもので, 我々が当面問題としている“X—不X”に直接関わる概念ではない。しかしながら, Aペアを除けば, 他の^{すべて}の対をなす(反義関係にある)形容詞は基本的にはDペア的情况を呈する。例えば, “安全—危険”についてみると,

46) 東京的晚上比纽约安全。

i) 東京ノ夜モニューヨークノ夜モ安全ダ。

ii) 東京ノ夜モニューヨークノ夜モ危険ダ。

iii) 東京ノ夜ハ安全デ, ニューヨークノ夜ハ危険ダ。

Aペアと異なり, 少なくともii)は排除される。すなわち「述語 VP (= “安全”) によって表される性質・状態がA (= “東京”), B (= “纽约”) 二項によって具有されるべく, ゆるやかに規制されている。」かつ, 「ゆるやかに」とは, この場合B項は述語 VP (= “安全”) に反するケースも許容するの謂である。

さて, 想定し得る情況は, このように複数個あっても, AB二項をいかなる^{スケール}によって比較するかは, 常に述語 VP によって一義的に決定される。これは ^{アナログ}A ペア ^{デジタル}D ペアを問わない。例42)は“高”なるスケールによって比較するのであり, 43)は“矮”, 44)は“冷”, 45)は“胖”, そして46)は“安全”というスケールを適用するのである。

従って, “不X”が述語である場合は, 当然のことながら“不X”なるスケールではかることになる。“不X”がスケールたり得ることは, 既に見たごとく, 意味的融合を起し単体概念と化していることの反映であるが, この時, AB二項は「想定し得る情況」に強い制限を受け, Aは無論のこと, ゆるやかな規制対象であったBも, 述語“不X”によって表される性質・状態を帯びていなければならぬ。これはBについての前提と言ってもよい。

4. 3 すなわち, “不X”を述語とする次の例。

47) 他们的想法比我们更不科学。

において、“更”または“还”が不可欠であるが、“更/还”の使用は、主語 A (= “他们的想法”)ではなく、“比”の目的語 B (= “我们的想法”)について

48) 我们的想法不科学

を前提として明確化させる働きを担う。Bは既に十分“不科学”であり、主語Aはさらに一層“不科学”であると主張しているのが文47)なのである。7)

これは“更/还”が「同一方向へさらに一歩進める」という含意を持つ副詞であることに負う。この機能を有するがゆえに、“更/还”挿入によって、Bについての前提(“不X”なる性状を具有していること)は明確化される。

では、なぜ、“不X”が述語となり、比較のスケールとして適用されると、このような強制的前提が生ずるのであろうか。この「なぜ」についての解答は用意できていない。恐らく極めて思弁的なものとならざるを得ないであろう。

筆者は、さしあたり、循環論めくが、〈比較における positive form 優先の原則〉に違反したことによる一種の代償であると考えている。“不X”なる異常なスケールによって比較する以上、A B二項は共に特異なスケールの適用に合致した(見合った)性状を具備していることが求められるのではあるまいか。“更/还”の挿入義務は、この代償の具現に他ならない。

(1989. 5. 5)

*インフォーマントとして玄宣青氏はじめ、楊凱榮、彭广陆、王彬彬氏らのお世話になった。記して謝意を表したい。

〈注〉

0) 本稿は1989年4月22日、お茶の水女子大学中国文学会第8回大会において「“这个比那个不大”とは何故いえぬ」と題する口頭発表を行った草稿に加筆して成ったものである。

また、この発表に先立ち相原1989を公にしているが、本稿はその続編でもある。

- 1) “比”構文の述語 VP には動詞や VO フレーズ、主述フレーズなどが現われ得るが、ここでは主に形容詞に限定して論ずる。
- 2) 例19)は景士俊1980からの引用、また例20)は武柏索等1988からの引用である。
- 3) 例19)では〈異同〉を表すにも関わらず“比先前大不相同”と“比”が使われている。“跟”に替えても文は成立するが、このような“比”の用法は書面語において散見される。
- 4) 議論がいたずらに錯綜することを避けるため、[-評価]の語でも“不笨”“不坏”“不赖”などは“很不笨”の形が可能であり、“A比B更_____”に生起できることを述べていないが、これらに関する詳細は相原1976及び1986を参照されたい。相原1986は前作1976に基づくものであるが、その内容には考えの修正・発展・統合が含まれてい

る。

- 5) “自由” “经济” “科学”などは近代的概念であり、日本からの借用語である。これらは本来名詞であったものが形容詞に兼類している語であれば、その反義語Yが存在しないことも首肯できる。
- 6) (但し、38)～(41)のような言い替えが常に保障されるわけではない。また個々の文は、その意味する所が微妙に異なる。
- 7) 北京語言学院1982, p. 22の記述による。

〈参考文献〉

- 北大中文系 1982 《现代汉语虚词例释》商务印书馆
北京語言学院 1982 《现代汉语常用词例解》(上册)北京語言学院
景士俊 1980 《现代汉语虚词》内蒙古人民出版社
武柏索等 1988 《现代汉语常用格式例释》商务印书馆
相原茂 1976 〈“很+不・形容词”の成立する条件〉『中国語学223』中国語学研究会
相原茂 1986 〈关于“很+不・形容词”成立的几个条件〉《第一届国际汉语教学讨论会论文集》北京語言学院出版社
相原茂 1989 〈介語フレーズを含む文の否定〉『お茶の女子大学中国学会報』(第8号)
お茶の水女子大学中国文学会

(お茶の水女子大学)